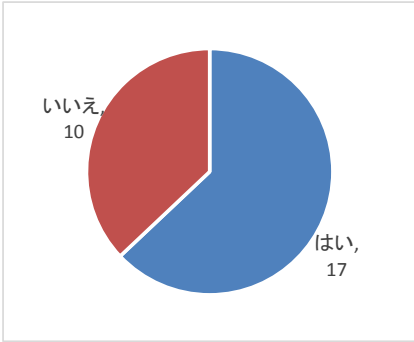


新しい文化創造プロジェクト  
意見交換会（10/30）アンケート結果

アンケート回答者数:27

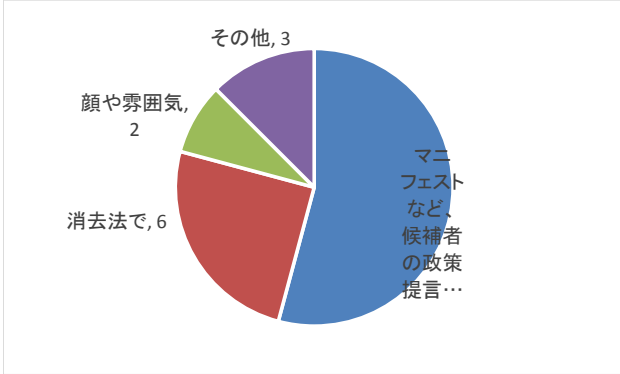
● 今回の衆議院選挙について ●

1 投票には行きましたか



2 候補者について、どのような観点で選びましたか

※複数回答あり

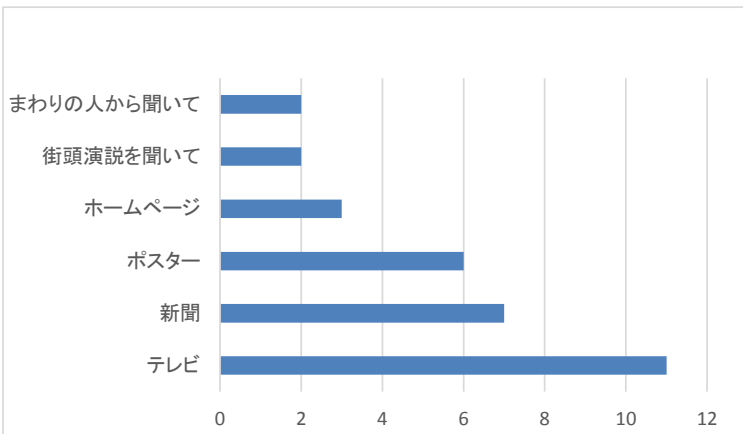


《その他の意見》

演説についてのニュースを見て
投票していないため選んでいない
個々の政治家について把握していなかった。また、現住所に公の住所を変えていないので投票に行く気はなかった

3 候補者についての情報をどのように得ましたか

※複数回答あり



4 選挙活動を通じ、どのような候補者であれば、自分たちの意見が政策に反映できると思いますか

芯が強い人で、国民のことを第一に考える人
その地域ごとに一番やらなといけないことが分かっている候補者ならよかった
政策をかかげるだけでなくそれを実行にうつす人
政策をどのように実行するか。具体性のある実行案を持っている人
マニフェストとやっていることがあまり変わらない人
名古屋の河村市長のような人

コンソ 意見交換会アンケート集計

**4 選挙活動を通じ、どのような候補者であれば、自分たちの意見が政策に反映できると思いますか（続き）**

若者だけでなく、高齢者の意見も幅広く取り入れようとする候補者
今日本に起きている問題に対する原因を示し具体的な政策を掲げる人。例えば、ただ単に「減税」
や「最低賃金の引き上げ」、「無償化」などを言っている候補者は一定の票は獲得できても反映できるかどうかは いささか不安である
自分たちの意見が政策に反映されるにあたり、自分たちの意見を国会において代弁するのであるから、自分たちの 将来の先読みができる候補者であれば自分たちの意見が政策に反映されると思う
嘘をつかない人・有言実行してくれる人・親しみやすい人（普段からの地域との交流）・実行力のある人
頭が柔らかくなるべく年が近そうな人
その政党に長く所属している、政党をこころ変えたりしない人
一般人の気持ちがわかる人
自分たちの意見が反映されるとは思っていない
政党のための政治ではなく、私たち国民のための政治をしてくれる人
自分と同じ年齢の人から信頼がある人
私たちのような若い人たちの投票率が高くなれば必然的に候補者も私たちに対する政策も入り意見も反映できると 思う
自分たちと年齢が近い候補者
国民の代表であるという自覚のある人物
そもそも日本の政治に期待していないし今後改善するとも考えられない。よって、自分の意見が政策に反映する とも思えないし、日本の選挙屋に個々の違いも感じられない。なので、資産が十分に増えたらより魅力的な国に移住 するつもりだ。
若者向けの政策の候補者
もっと若者の有権者に対しての政策、若者向けの政策を打ち出し、をれを確実に実行に移してくれる候補者

**5 選挙にこんな工夫があったら、興味を持つということがあれば記入してください**

若い人の投票率が落ちて、政治参加ができないと思うので、万人受けするような政策だとか演説をするのが良いと 思います
実現可能なことをすることをすれば興味を持てると思う
manifestoを様々な場所に掲示する
今まで通りで問題ない。来ない人は何を言っても来ないのだと割り切る
ポスターに政策提案を載せる
SNSが中心の現代社会でSNSも活用した選挙を行ってほしい
一時間番組中であるバラエティなどで、バカにしない様に分かりやすくおもしろい候補者の説明の時間を入れる
テレビや新聞、インターネットなどで、様々な候補者の政策を見るが抽象的な政策や気難しい言葉の使用が多いと 感じる。もう少し、国民が理解しやすい言葉での政策の説明があると、選挙に興味を持つのではないかと思う
選挙年齢の引き下げにより、若い世代の投票数を上げるべきだと思うので、小中学生のときからある程度政治につ いて理解できるような授業を導入する。選挙権を持っていても政治についてわからないと投票すらできないので。
若者もなじみやすいユーモア
投票したら記念にペンやクリアファイルをもらえたらうれしいと思います
特になし
ネットからでも投票できると忙しい時間でも投票できる人が増えて興味関心を持つ人が増えると思います
ネットで候補者の演説をみられるようになったら。候補者の意見を表形式にもらえたら。
街頭演説を映すなど、選挙期間中に開票番組的なことをやるべき。（この党は何をしているかの的な、内容の分かる 海外の一部の国で採用されているように投票しない場合に罰金が発生するように制度を変更したなら、罰金の金額 次第では損失額を考慮し、渋々投票に行くかもしれない
選挙について楽しく分かりやすく討論する番組とかあったら面白いなと思う
実際に候補者と会ってみて候補者の雰囲気や政策内容を聞いてみる
ネットやSNSを通じて選挙について訴えていけば若者の関心も上がるだろう